

やよい 弥生時代

かわいちょう おうじちょう
河合町の北西部、王寺町にまたがって広が
る舟戸・西岡遺跡では、古くから田畑を耕し

ている時に土器や石包丁が出土することがあり、弥生時代の遺跡があ
ると考えられてきました。平成9年(1997年)以降に実施された発掘
調査では、^{ちようさ たてあなじゅうきよあと} 縦穴住居跡も見つかり、^{やよい} 弥生時代の集落があったことがわか
りました。

とくに、平成9年(1997年)度に奈良県立^{かしはら} 橿原考古学研究所が
実施した^{じっし はくくつちようさ} 発掘調査の結果、^{きゅうりよう} 丘陵の^{ちようじようぶ} 頂上部には^{こうちせい} 高地性集落(^{やよい} 弥生時代
の^{とりで} 砦のようなもの)があることがわかり、普段は^{ふだん} 東側の平らなところで
生活していたと考えられるようになりました。

また、この^{いせき} 遺跡では^{やよい} 弥生時代に続く^{こふん} 古墳時代以降の土器も出土し、
^{やよい} 弥生時代から現代にいたるまで人々が住み続けている場所です。

出土品には^{どすい} 土錘と呼ばれるものがあります。これは^{あみ} 網につけるおも
り^{いせき} で、^{やまとがわ} 遺跡の北側にある大和川で^と 魚を捕っていたのでしょう。

^{おおわだ} 大輪田と^{じょうない} 城内にまたがる^{かすが} 春日神社(天神社)のあたりでも、^{やよい} 弥生土
器と石器の原料のサヌカイトが出土しています。

^{じょうこ} 城古でも、^{はくくつちようさ} 発掘調査で^{やよい} 弥生時代の割れた石包丁を別の形に^{つく} 作り替
えたと思われる石器が出土しています。

^{やまとがわ} 大和川に^そ 沿う^{ちいき} 地域を中心に^{やよい} 弥生時代の人々は生活していたようです。



写真: ^{ふなと にしのおかいせき} 舟戸・西岡遺跡(左下半分)と
^{やまとがわ} 大和川(中央)



写真: ^{ふなと にしのおかいせき} 舟戸・西岡遺跡出土 ^{どすい} 土錘

こふん 古墳時代

この時代は、河合町から大和高田市にかけて広がる馬見丘陵を中心に古墳が多くつくりていました。河合町のまわりには、多くの人たちが暮らし、この地域をおさめた人たち（豪族）がいました。現在、馬見丘陵公園の中やそのまわりには合計 37 基の古墳が知られています。

一方、河合町の北東部にある大塚山古墳は、今からおよそ 1550 年前につくられたものと考えられていますが、奈良盆地でその時期につくられた古墳のなかでは一番の大きさです。その古墳の東にある宮堂遺跡では、古墳時代のころのものとみられる土器のかけらや、竪穴住居と呼ばれる家の跡などがみつかっています。おそらく宮堂遺跡で生活していた人たちが、大塚山古墳やそのまわりの古墳をつくっていたのではないかと考えられています。



みやどういせき おおつかやまこふん
写真：宮堂遺跡と大塚山古墳



おおつかやまこふん みやどういせき たてあなじゅうきよあと
写真：大塚山古墳（奥）と宮堂遺跡の竪穴住居跡

畑を 1m くらい掘り下げると、古墳時代の土器がたくさん出土しました。柱穴も見つかったことで古墳時代の建物の跡であることがわかりました。東側の道路工事に伴う発掘調査でもたくさんの建物跡が見つかっています。



写真：出土した土器



みやどういせきはくつちようさ
写真：宮堂遺跡発掘調査の様子



『河合町史』刊行後にみつかったものの一部



きぬがさがたはにわ
蓋形埴輪



たんこうがたはにわ
短甲形埴輪
さみ たからづかこふん
佐味田宝塚古墳



しゃりんせき
車輪石



どうきよう
銅鏡



ぜんぼうぶ まいそうしせつ
前方部の埋葬施設



まが玉ほか

やまこふん
ナガレ山古墳



せきせいもぞうひん
石製模造品



てつせいもぞうひん
鉄製模造品



はにわ ひだりうで
人物埴輪の左腕

出土した時には失われていましたが、指も1本ずつ
ていねいにつくられていたようです。



えんとうはにわ
船の絵が描かれた円筒埴輪
おおつかやまこふん
大塚山古墳



船の絵の部分拡大
上下に3隻の船が描かれ
ています。



はっくつちようさ しゅうごう
発掘調査で周濠の
外側の斜面に葺石が
残っているのがわか
りました。

なからづかこふん
中良塚古墳



いけべみつつけ ふん
池部三ツ池1号墳

はっくつちようさ
発掘調査で見つかった横穴式石室の跡。
石室の石が一部残っ
ていました。

さ み た たからづかこふん
○佐味田宝塚古墳

さ み た たからづかこふん かわいちょう
佐味田宝塚古墳は、河合町の南西部にある長さ111.5mの前方
こうえんふん
後円墳です。

この古墳の後円部のまわりには円筒埴輪がならべられ、しゃ面には
石がしきつめられていたことがわかっています。またこの古墳からは、銅
でできた鏡(銅鏡)や石でできたまが玉、家の形をした埴輪のかけらな
どが多く見つかっています。特に、銅の鏡はかけらを入れて36面が見
つかっています。そのなかには、古墳時代の4つの建物がえが
かおくもんきょう
見つかっており、その鏡を『家屋文鏡』と言います。



さ み た たからづかこふん
写真:佐味田宝塚古墳(南から)
(写真左が後円部)



か おくもんきょう
写真:家屋文鏡

く ないちょうしょぞう
(宮内庁所蔵)

複製・転載禁止

ぶんかざい
町文化財キャラクター

たから さ み た たからづかこふん
←「宝バアさん」(佐味田宝塚古墳イメージ)



○ナガレ山古墳^{やまこふん}

ナガレ山古墳^{やまこふん}は河合町^{かわいちょう}の南東部、今は馬見丘陵公園^{うまみきゅうりょう}のなかにある前方後円墳^{ぜんぽうこうえんふん}です。長さは105m あります。かつて地元では「お太子山^{たいしやま}」と呼ばれていました。

昭和63年(1988年)から平成5年(1993年)の発掘調査^{はくつちようさ}で、しゃ面に葺石^{ふきいし}があり、古墳^{こふん}のまわりに埴輪^{はにわ}が2段にわたってならべられているのが見

つかりました。また、古墳^{こふん}の上へのぼるための埴輪で仕切った通路があることがわかりました。この古墳^{こふん}からは、まが玉や鉄でできた刀、食べ物^{どせいひん}の形をした土製品など多くのものが見つかっています。

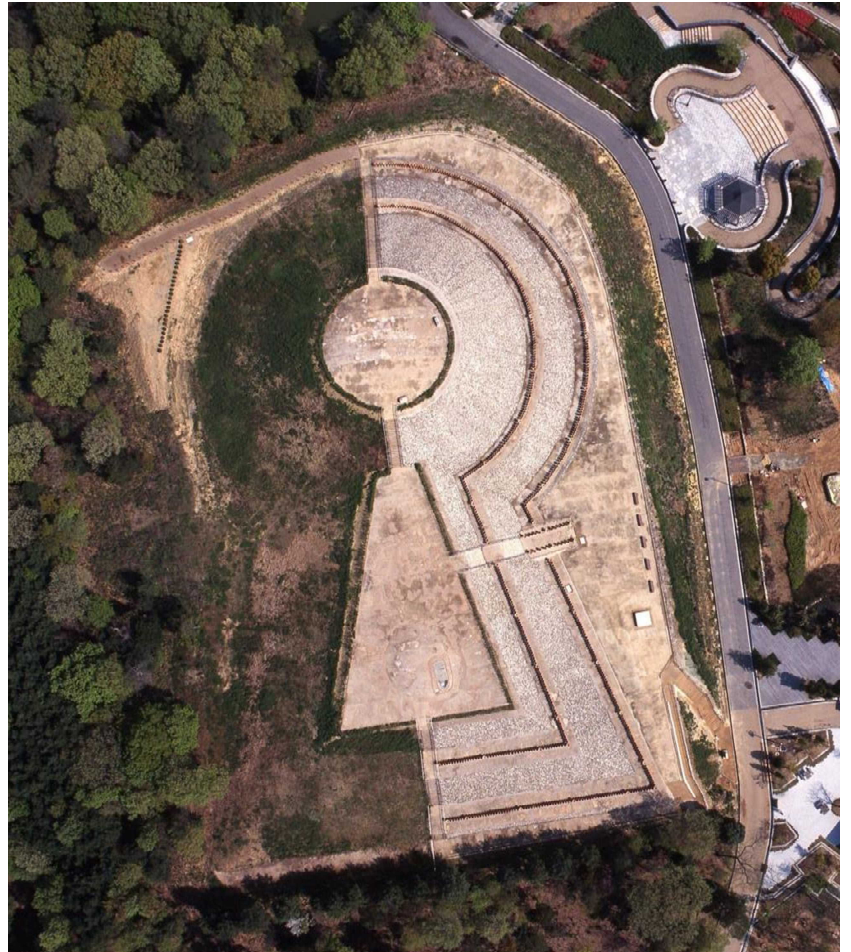


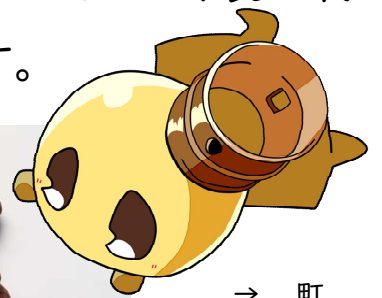
写真:ナガレ山古墳^{やまこふん}
はにわ



写真:ナガレ山古墳^{やまこふん}から見つかった埴輪^{はにわ}たち



写真:食べ物^{どせいひん}の形をした土製品

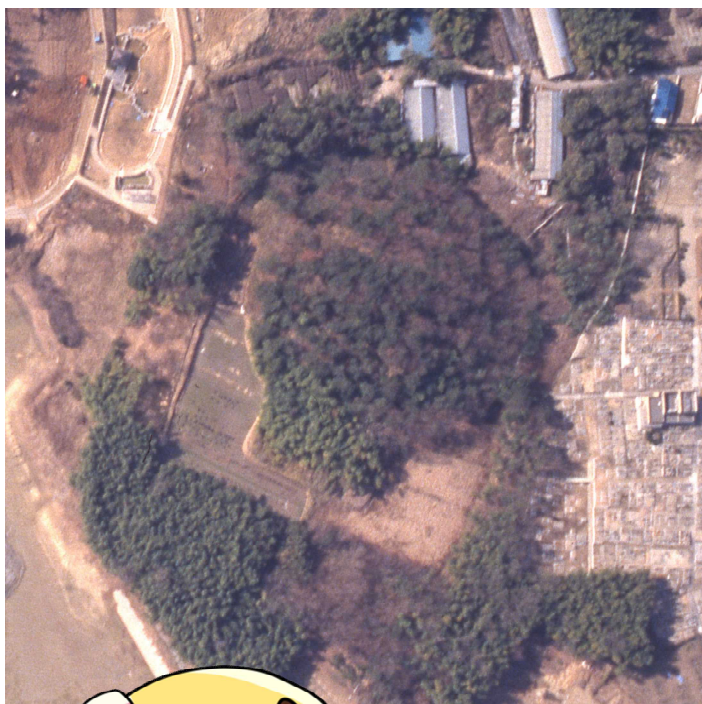


町文化財キャラクター
→「ナガレくん」
(ナガレ山古墳^{やまこふん}イメージ)

おとめやまこふん
○乙女山古墳

おとめやまこふん かわいちょう やまこふん うまみきゅうりょう
乙女山古墳は河合町の南東部、ナガレ山古墳と同じ馬見丘陵公園
のなかにある古墳です。古墳の長さは約130mあり、前方後円墳とくら
べて後円部が大きく、前方部がすごく短く小さい様子がわかります。こ
の形が帆立貝に似ていることから、帆立貝形古墳と言います。おとめやま
古墳は、帆立貝形古墳としては全国で2番目の大きさです。

古墳の南西側には、造り出しといわれる前方部よりさらに小さいテラ
ス状の場所があり、そこからは家の形をした埴輪や円筒埴輪、土器の
かけらが多く見つかりました。



おとめやまこふん
写真：乙女山古墳

(平成元年(1989年)撮影)



いえがたはにわ
写真：家形埴輪



ぶんかざい
町文化財キャラクター
おとめやまこふん
←「おとめちゃん」(乙女山古墳イメージ)

おおつかやまこふんぐん
○大塚山古墳群

おおつかやまこふんぐん かわいちょう ぜんぼうこうえんふん き おおつかやま
大塚山古墳群は河合町の北東部にある、前方後円墳3基（大塚山、
しろやま なからづか えんふん き まるやま たかやま たかやま たかやま ほうふん
城山、中良塚）、円墳4基（丸山、高山2号、高山3号、高山4号）、方墳
き くそうづか き こふんぐん せい き せい き
1基（九僧塚）の8基からなる古墳群です。5世紀後半から6世紀前半
までの数十年間のあいだに、次々と古墳がつくられたものとされていま
す。げんざい き こふん こふんぐん
現在では8基残っていますが、かつては小さい古墳が古墳群のまわり
にいくつもあったと考えられています。



ぶんかざい
町文化財キャラクター ↑
おおつかはかせ おおつか こふん
「大塚博士」（大塚山古墳イメージ）

おおつかやまこふん
○大塚山古墳

おおつかやまこふんぐん
写真：大塚山古墳群

おおつかやまこふん かわいちょう ぜんぼうこうえんふん
大塚山古墳は河合町の北東部にある前方後円墳です。長さは
おおつかやまこふんぐん
197mで、大塚山古墳群のなかでは1番の大きさがあります。また、町
内でも1番の大きさです。古墳のま
わりには堀の形が残っており、またそ
の外側にも堀があったことがわかって
います。こふん こふん
古墳や古墳のまわりから
は、いろいろな形の埴輪のかけらや、船
の絵が描かれた円筒埴輪が見つか
っています。



おおつかやまこふん くそうづかこふん
写真：大塚山古墳と九僧塚古墳

なからづかこふん
○中良塚古墳

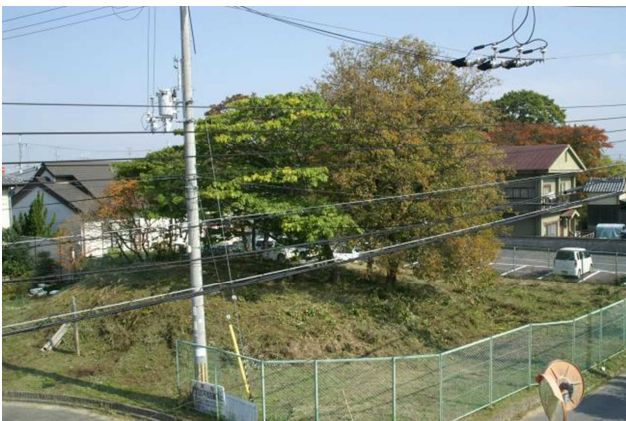
なからづかこふん かわいちょう にしなぐら じゅうたくち
中良塚古墳は河合町の北部、西穴闇の住宅地のなかにある長さ
ぜんぽうこうえんふん おおつかやまこふん
88m の前方後円墳です。前方部が南を向いている大塚山古墳とちが
なからづかこふん ぜんぽうぶ
い、中良塚古墳は前方部が北を向いています。

こふん ほり
古墳のまわりに土手をつくり、堀
がめぐらされていたことがわかって
います。この古墳からは円筒埴輪や
いえがたはにわ
家形埴輪のかけらなどが見つっ
なからづか
ています。「中良塚」という名前は
「ナグラヅカ」がなまったものと考え
られます。また地元では「盆山」^{ぼんやま}とも
よ
呼ばれていました。



写真：中良塚古墳
(写真の右側が後円部)

たかやま ふん たかやま ふん たかやま ふん
○高山2号墳、高山3号墳、高山4号墳



写真：高山2号墳

えんふん
円墳だったとわかっています。

ふん はにわ ふん
2号墳からは人物埴輪のうでの部分が見つかり、3号墳からはまが
玉が見つかりています。

たかやま ふん たかやま ふん たかやま
高山2号墳、高山3号墳、高山4
ふん なからづかこふん
号墳は、中良塚古墳の西側にある3
き こふん
基の小さな古墳です。今はそれぞれ
ふんきゅう
10m ほどの墳丘が残っていますが、
はくつちようさ ふん ふん
発掘調査で2号墳と3号墳は直径
ふん
35m、4号墳は直径30m ほどの



たかやま ふん
写真：高山3号墳



たかやま ふん
写真：高山4号墳



く そうづかこふん
写真：九僧塚古墳

く そうづかこふん ○九僧塚古墳

く そうづかこふん おおつかやまこふん
九僧塚古墳は大塚山古墳のすぐ
げんざい ぞ ほうふん
西側、現在の県道沿いにある方墳
です。今は長方形の形をしています
が、発掘調査で一辺 35m ほどの正
はくつちようさ
方形の形をしていたことがわかりま
した。

まるやまこふん ○丸山古墳

まるやまこふん かわいちょう
丸山古墳は河合町の北東部、
おおつかやまこふん こふん
大塚山古墳の北側にある古墳です。
直径が 48m ほどの大型の円墳で
す。調査が行われていないのでくわ
しくはわかりませんが、古い絵図に
こふん ほり
は古墳のまわりに堀がめぐっていた
えが
様子が描かれています。



まるやまこふん
写真：丸山古墳



写真:城山古墳

○城山古墳

城山古墳は大塚山古墳から北東の方向にある古墳です。古墳の長さは109mの前方後円墳で、古墳のまわりには堀の形が田んぼや畑として残っていることがわかります。城山という名前は、中世のころに屋敷や砦として使われていたと伝えられていることに由来する名前です。

古墳のいろんな形

古墳の形は、前方後円墳・前方後方墳・帆立貝形古墳・円墳・方墳・双方中円墳・双方円墳・双方方墳・八角形墳など、10種類以上にのびります。そのうち河合町にある古墳の形は、前方後円墳と帆立貝形古墳、円墳と方墳の4種類です。

古墳の形にも順位があり、前方後円墳が位が一番高く、その次に前方後方墳、円墳、方墳と続きます。また古墳自体の大きさも、大きければ大きいほど、その地域をおさめていた王や豪族のちからが大きかったと考えることができます。



どれがどの古墳の形の名前かわかるかな…?

飛鳥～平安時代

この時代の河合町では、
穴闇に長林寺がつくられ、

宮堂遺跡にも古代のお寺がつくられていたとされています。

また、平城京にあった長屋王（廣瀬神社を大切にした天武天皇の孫）の邸へ、薬井のまわりで作られた野菜類をとどけていたと、そこで見つかった木簡（文字などが書かれた木のふだのこと）で明らかになっています。薬井では他にも瓦が作られており、この瓦も長屋王の邸や寺院に使われていたと考えられていて、当時の都とのつながりを感じることができます。

平安時代に入ってから、建物の建てかえをしながら穴闇の長林寺は続いており、また城古や長楽では、人々がくらす集落や荘園といわれる貴族や寺社が所有する土地（田や畑）があったといわれています。

○長林寺跡

長林寺跡は、河合町穴闇にある今の長林寺と素戔鳴神社の境内にあった、古代の寺院の跡です。いつごろつくられたものかわかりませんが、聖徳太子が長林寺の創建に関わっていたと言い伝えられています。昭和62年（1987年）と昭和63年（1988年）に発掘調査が行われ、そのときには金堂と呼ばれる建物のきそなどが見つかりました。またこの調査では、飛鳥時代から

奈良時代の瓦を中心^{かわら}に多くの瓦^{かわら}が見つかっています。そのうち112点が、令和4年(2022年)2月10日に河合町指定文化財(考古資料^{ぶんかざい} 資料^{しりょう})に指定されました。

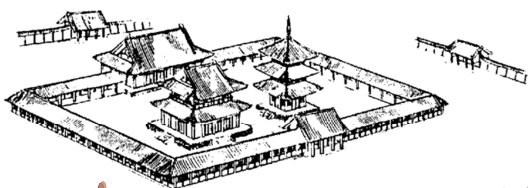
今の長林寺^{ちょうりんじ}の建物^{えど}は江戸時代に建てられたものですが、その庭先^{とうしんそ}には塔心礎^{とう}という塔の中心の柱を乗せた石が残っています。また、素戔鳴神社^{すさの}の境内^{けいだい}には金堂^{こんどう}が建っていた土台^{きだん}(基壇)が残り、柱を乗せた石(礎石^{そせき})を今も見ることができます。

発掘調査^{はくつちようさ}で出土^{かわら}した瓦^{なぐら}の中に、「長倉寺瓦^{ながくらでらがわら}」という文字が書かれた奈良時代の瓦^{かわら}があります。「長倉^{ながくら}」が現在の地名^{げんざい}の「穴闇^{なぐら}」に変わったとも考えられています。

また、今の長林寺本堂^{ちょうりんじ ほんどう}のなかには鎌倉時代^{かまくら}につくられたものとされる聖徳太子像^{しょうとくたいしぞう}があり、最近^{ちようさ}の調査^{ぶつぞう}でその仏像^{ぶつぞう}のなかには、巻物^{まきもの}などのものがおさめられていたことがわかりました。この調査^{ちようさ}で貴重なもの^{きちよう}とわかったので、令和4年(2022年)11月22日に河合町指定文化財(有形文化財^{かわいちょう ぶんかざい} 彫刻^{ぶんかざい} 彫刻^{ちようこく})に指定されました。



写真: 金堂基壇^{こんどうきだん}



写真右上: 長倉寺と書かれた瓦^{ながくらでら}

左上: 聖徳太子立像^{しょうとくたいしりゆうぞう}

複製・転載禁止

(写真は奈良国立博物館提供)

右下: 飛鳥時代の瓦^{かわら}



○薬井瀧ノ北遺跡

薬井瀧ノ北遺跡は河合町の西側、薬井にある遺跡です。平成16年(2004年)に発掘調査が行われ、瓦のかけらや炭が多く見つかったことから、瓦を焼く窯があったとされています。瓦を焼く窯がいくつもあったと思われ、このあたりは瓦作りの工房があったと考えられます。



写真:発掘調査の様子
写真中央下の明るく黄色い土が奈良時代の地面です。その上の黒っぽい土には瓦のかけらや炭が混じっています。



写真:長屋王邸跡で出土した瓦
(奈良文化財研究所提供)

複製・転載禁止



写真:薬井瀧ノ北遺跡で出土した瓦
上の写真の軒平瓦と同じ模様です。現在の学校の校章のように、当時は宮殿や寺院ごとにそれぞれ特色のある模様の瓦を使っていました。

御園作人功事急々受給 六月二日真人



片岡進上蓮葉三十枚 持人都夫良女

複製・転載禁止

写真:長屋王邸跡で出土した木簡
(奈良文化財研究所提供)
河合町・王寺町・上牧町・香芝市のあたりは古代に「片岡」と呼ばれていました。この木簡は、片岡から蓮の葉30枚を都夫良女という人が持っていったことが書かれています。

○宮堂遺跡

宮堂遺跡は河合町の東側にある遺跡です。古くは縄文時代から人々が生活していた跡が見つかっており、飛鳥時代の土器なども出土していることから、飛鳥時代にも人々がこの地域で生活していたと考えられます。

このあたりの地域については、廣瀬神社に残されている古い絵図に定林寺と呼ばれる大きなお寺が描かれていることから、この遺跡のどこかに元の定林寺があった可能性があります。

じょうりんじ
○定林寺

げんざい じょうりんじ ひろせ
現在残っている定林寺は、廣瀬神社の西側にあります。その
ほんどう え ど ほんどう
本堂は江戸時代のはじめに建てられたものとされており、本堂の
ぶつぞう あんち
なかには多くの仏像が安置されています。

ぶつぞう じぞう ぼさつりゅうぞう じゅういちめんかんのん ぼさつりゅうぞう
そのうち4体の仏像（地蔵菩薩立像、十一面観音菩薩立像、
あ み だ によらいざぞう ふどうみょうおうりゅうぞう むろまち
阿弥陀如来坐像、不動明王立像）が、平安時代～室町時代にか
けてつくられた仏像の特色をよく示していることから、平成9年
（1997年）3月26日に河合町指定文化財（有形文化財/彫刻）
に指定されました。



じょうりんじ
写真：定林寺門前



じゅういちめんかんのん ぼさつりゅうぞう
写真：十一面観音菩薩立像



ふどうみょうおうりゅうぞう
写真：不動明王立像



じぞう ぼさつりゅうぞう
写真：地蔵菩薩立像



あ み だ によらいざぞう
写真：阿弥陀如来坐像

かまくら 鎌倉時代

かまくら ぶ し れ き し おもてぶたい かつやく
鎌倉時代は武士が歴史の表舞台で活躍する
ようになつた時代です。13世紀には各地で濠
で囲った館が造られるようになります。河合町でも居場垣内遺跡など
が見つかりました。

い ば が い と い せ き ひろせ かんぬしやしき ○居場垣内遺跡（廣瀬神社神主屋敷）

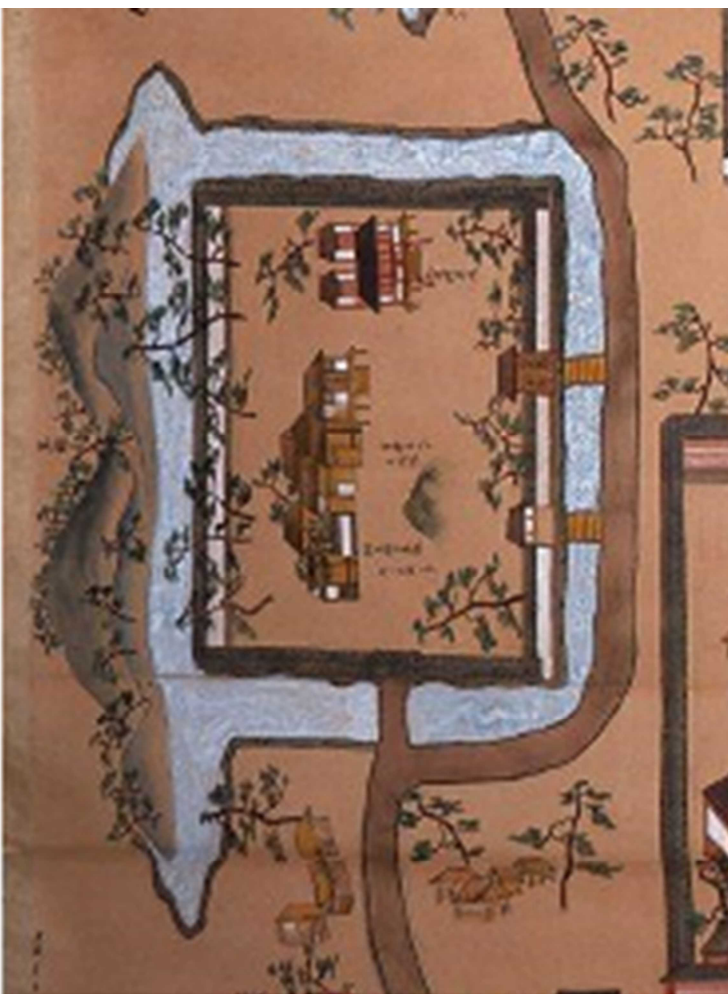
え ど えが おおつかやまこふん ほり かこ
江戸時代に描かれた絵図に、大塚山古墳の東側に長方形に濠で囲
った様子が描かれており、廣瀬神社神主屋敷と書かれています。平成
11年（1999年）の発掘調査で13世紀の土器がたくさん出土し、
かまくら ほり かこ つく
鎌倉時代には濠で囲まれた館が造られていたと考えられます。



やまとくにひろせしやえずめん
写真：大和國廣瀬社繪圖面

ひろせ しやぞう
(廣瀬神社所蔵)

複製・転載禁止



おおつかやまこふん ほり かこ
大塚山古墳の濠につなげて四角く囲っています。
大塚山古墳の左には「王塚山」と書かれています。



写真：居場垣内遺跡

土器が出土した様子。

写真の左上のほうから右下のほうに向かって
土器が投げ捨てられたようです。投げ捨てられ
た方向の先には廣瀬神社があります。

写真：居場垣内遺跡

発掘調査で出土した土器。

土師器の皿と瓦器の碗が出土
しました。赤茶色の土器を土師器
と呼び、黒色の土器を瓦器と呼ん
でいます。

神様への捧げ物を入れてお祭
りに使ったのでしょうか、宴会に
使ったのでしょうか。



鎌倉幕府の第三代将軍源実朝の歌集『金槐和歌集』には、万葉集の
廣瀬川の歌によく似た歌が収められています。万葉歌を源実朝の感性で
当世風に詠んだと思われます。源実朝は歌人としてもよく知られており、特
に万葉調の和歌を多く残しています。

廣瀬川 袖つくばかり 浅きをや 心深めて わが思えるらむ

作者不詳（『万葉集』 卷7 1381）

廣瀬川 袖つくばかり 浅けれど 我は深めて 思ひそめてき

源実朝（『金槐和歌集』）

むろまち 室町～戦国時代

むろまち おうにん
室町時代後期におこった応仁
らん
の乱から戦国時代にわたって、全

国で争いがおこった時代でした。

かわいちょう ちいき
河合町の地域も同様で、武士と農民たちは、自分たちの村を守るた
め^{ぶし}に力を合わせていました。町内にも武士がいたことがわかる遺跡^{いせき}や
しりょう
史料が残っています。

いちばがいといせき ○市場垣内遺跡

しろやまこふん
城山古墳の北側にある 40m 四方を濠^{ほり}で^{かこ}囲った^{やかたあと}館跡です。
よしだやましろのかみよしとき ^{ぶしょう} 吉田山城守義辰という武将の^{やかたあと}館跡と伝えられています。普段はこの館^{ふだん}
で生活し、戦^{いくさ}になると川合城^{しろやまこふん}（城山古墳のこと）に籠^こもって戦ったと伝
えられています。

はくつちようさ
発掘調査では、当時の中国などで作ら
れた焼き物（陶磁器^{とうじき}）が出土しています。
やまとがわ ^{こうえき}
大和川を使った交易で入手した物でしょ
うか。



いちばがいといせき
写真：市場垣内遺跡出土 輸入陶磁^{とうじ}

かわちょう ちいき なぐら ちょうりんじ かわい ひろせ
戦国時代、河合町の地域でも穴闇の長林寺や、川合の廣瀬神社が
ひがい
合戦による被害を受けて建物や書類の多くが焼けてなくなっていま
した。

争いは人の命だけではなく、建物や書類もなくなることによってその時
どんな生活をしていたかなどがわからなくなり、私^{わたし}たちから歴史も奪^{れきし}
うば
てしまいます。

おおわだどのせきとう
○大輪田殿石塔

おおわだ ごりんとう とくちょう
大輪田にある五輪塔です。作られた年代はわかりませんが、形の特徴
むろまち
から室町時代初期に作られたと考えられています。

えど おおわだどのせきとう
また、江戸時代の絵図に「大輪田殿石塔」と
書かれていることから、むろまち おおわだ
城を築いていた豪族の
きず ごうぞく
大輪田氏の墓と考えられています。

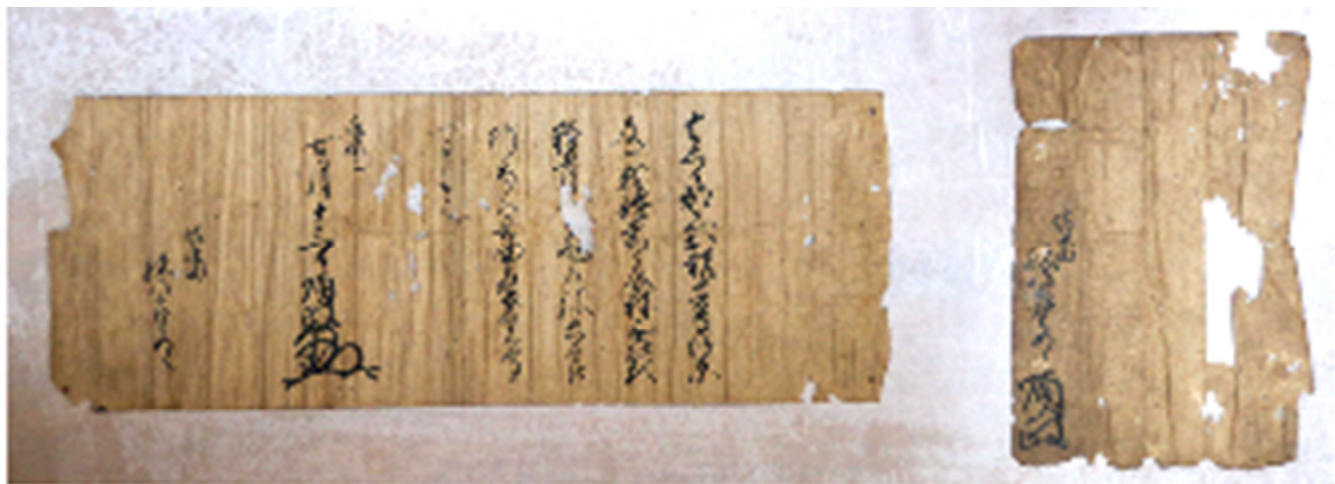
ひろせぐん おおわだむらりょうないえ ず
図：「廣瀬郡大輪田村領内絵図」
の一部



おおわだどのせきとう
写真：大輪田殿石塔

つついじゅんせい かんじょう
○筒井順政感状

つついじゅんせい ぶしょう さみ た そうはちろう ぶし
筒井順政という武将から、佐味田に住む総八郎という武士へ向けて
書かれた手紙です。そうはちろう かつやく ほ ないよう
総八郎が合戦で活躍したことを褒めている内容で
す。かわいちょう ち い き かつやく ぶし
戦国時代に、河合町の地域で活躍していた武士がいたことがわか
るきちょう しりょう
貴重な史料であるため、令和4年(2022年)11月22日にかわいちょう
ぶんかざい ぶんかざい
指定文化財(有形文化財/古文書)に指定されました。



複製・転載禁止

つついじゅんせい かんじょう さみ た
写真：「筒井順政感状」(佐味田・個人所蔵)

えど 江戸時代

平和な時代が長く続いた江戸時代は、農作物を改良して今まで以上に作物を作ることができるになったり、作ったものを全国へ売ることができるようになるなど、人や物の流通が発達した時代でした。

河合町の地域には薬井村・大輪田村・城内村・穴闇村・川合村・長楽村・池部村・山ノ坊村・佐味田村の9ヶ村がありました。

※江戸時代をとおして、上記の村々の大半は郡山藩（中心地は現在の大和郡山市）の領地に所属しており、郡山藩主である殿様へ年貢（米など）を納めて生活をしていました。

や な ぶ ね ○魚梁船

明治時代に鉄道ができるまで、大和川は大和（現在の奈良県）と河内（現在の大阪府）を結ぶ大事な交通路でした。

河合町内には、「川合浜」と呼ばれる魚梁船を使った荷揚げ場や舟問屋がありました。川合浜の付近に市場があり、とても賑わっていました。



写真：(1/10 スケール) 魚梁船復元模型（河合町中央公民館で展示しています）

※魚梁船を使い、大和国からは主に売るためのお米や綿などの作物、河内国からは主に作物を育てるための肥料が運ばれていました。

ひろせ ○廣瀬神社

廣瀬神社は奈良時代に書かれた『日本書紀』という書物にも紹介されている、とても古い歴史をもつ神社です。おまつりしている主な神様は、若宇加能売命という水の神様・水田を守る神様・作物の豊作をつかさどる神様です。



複製・転載禁止

図：和州廣瀬郡廣瀬大明神之図（廣瀬神社所蔵）

中央に、本殿が三殿並んで描かれています。

ひろせ
廣瀬神社に伝わっている古い絵図には大きく立派な建物が描かれています。

建物は、長い歴史の中で焼失と再建をくり返していますが、現在の本殿は江戸時代に建てられたものです。その建築のすばらしさから奈良県指定文化財（建造物）に指定されています。



写真：現在の廣瀬神社本殿

複製・転載禁止

○^{ひろせ}廣瀬神社の^{すな}砂かけ祭（^{まつり}御田植祭）

^{ひろせ}廣瀬神社で毎年2月11日に行われる「^{すな}砂かけ祭」は、^{ゆた}豊かな実りを願うためのお祭りです。奈良県のめずらしい祭りとして、町の^{みんぞく}無形民俗文化財に指定されています。

^{すな}砂かけ祭は「^{まつり}殿上の儀」と「^{でんじょう}庭上の儀」の二部にわかれて行われます。神事を^{いとな}営む主要な役として^{たひと}田人（^{たがやす}田んぼを耕す人）がいますが、町イメージキャラクターの^{たひと}すな丸はこの田人をモデルにしています。



【^{でんじょう}殿上の儀】

^{はいでん}拝殿という建物の中で行われる神事です。^{のりと}祝詞を神様に向けて唱えた後に、^{はいでん}拝殿を^{なわしろ}田んぼに見立てて^{しよさ}苗代作り、^{なわしろ}田作りなど、^{しよさ}田植えまでの所作を行います。

【^{ていじょう}庭上の儀】

^{はいでん}拝殿前の広場に青竹を四本立て、しめ縄をはって^{なわしろ}田んぼに見立てます。この^{なわしろ}田んぼで、^{でんじょう}殿上の儀と同じように^{しよさ}田植えまでの所作をくり返します。^{しよさ}田作りの所作をした後は、^{たいこ}太鼓の合図で^{さんばいしゃ}参拝者も^{いっしょ}一緒になって^{すな}砂をかけ合います。

^{すな}砂を雨に見立ててかけ合うことで、^{めぐ}良い雨に恵まれるように願い、また^{すな}砂のかけあいがはげしいほど、^{ゆた}豊かな^{めぐ}恵みが^{おとず}訪れるといわれています。

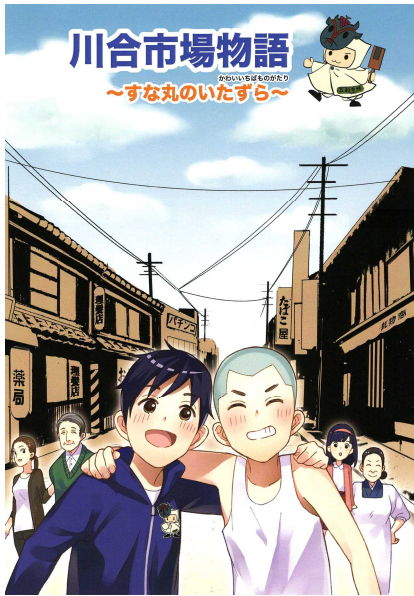


写真：「^{ていじょう}庭上の儀」で^{たひと}田人が砂をかける様子

複製・転載禁止

おわりに

明治時代になると、現在の日本につながる近代国家が成立します。その過程の中で、近隣の村々も一つに集まって河合村が成立します。河合村は、後に河合町と名前を変えて現在に続いています。



絵:『川合市場物語~すな丸のいたずら~』表紙

Check!

まんが かわい いちばものがたり
漫画『川合市場物語~すな丸のいたずら~』で昭和の河合町を楽しく知ることができます。
げんだい かくにん
現代とどうちがうかな?読んで確認してみよう!

これからの河合町~未来へむけて~

歴史は過去のできごとですが、新たな発見や研究を進めることによって今までわからなかったことがわかることがあります。

これからも、河合町内にのこる多くの遺跡や文化財を未来へむけてのこしていくためにはどうしたら良いのでしょうか。

私たち一人ひとりの文化財を大切に思う気持ちと、史跡を守るための行動が重要です。



写真:文化財啓発看板
ぶんかざいけいはつかんばん

ふろく 河合町内所在の指定文化財一覧

国指定文化財

区 分	名 称	所 在 地	指 定 年 月 日
し せ き 史 跡	おとめやまこふん 乙女山古墳	さみ た 佐味田 こうりょうちょうてらど 広陵町寺戸	昭和 31 年 11 月 7 日
し せ き 史 跡	おおつかやまこふんぐん 大塚山古墳群 (おおつかやまこふん しろやまこふん まるやまこふん くそうづかこふん たかやまづか こふん なから 九僧塚古墳・高山塚1号古墳(中良 づかこふん たかやまづか こふん 塚古墳)・高山塚2号古墳 たかやまづか こふん たかやまづか こふん 高山塚3号古墳・高山塚4号古墳)	かわい なぐら 川合、穴闇	昭和 31 年 12 月 28 日
し せ き 史 跡	やまこふん ナガレ山古墳	さみ た 佐味田	昭和 51 年 12 月 27 日
し せ き 史 跡	さみ た たからづかこふん 佐味田宝塚古墳	さみ た 佐味田	昭和 62 年 5 月 12 日

県指定文化財

区 分	名 称	所 在 地	指 定 年 月 日
天然記念物	うまみきゅうりょう 馬見丘 陵 出土シガゾウ化石 うまみきゅうりょう 馬見丘 陵 出土シカマシフゾウ化石	なぐら 穴闇 (奈良県立橿原考古学 研究所保管)	昭和 61 年 3 月 18 日
けんぞうぶつ 建造物	ひろせじんじゃほんてん しょうとくがん 廣瀬神社本殿【正徳元(1711)年】	かわい 川合	昭和 63 年 3 月 22 日

町指定文化財

区 分	名 称	所 在 地	指 定 年 月 日
ちよう こく 彫 刻	じぞうぼさつりゅうぞう 地蔵菩薩立像【平安時代前期】	かわい じょうりんじあんち 川合(定林寺安置)	平成 9 年 3 月 26 日
ちよう こく 彫 刻	じゅういちめんかんのんぼさつりゅうぞう 十一面観音菩薩立像【平安時代中期】	かわい じょうりんじあんち 川合(定林寺安置)	平成 9 年 3 月 26 日
ちよう こく 彫 刻	あみだにょらいざぞう 阿弥陀如来坐像【平安時代後期】	かわい じょうりんじあんち 川合(定林寺安置)	平成 9 年 3 月 26 日
ちよう こく 彫 刻	ふどうみょうおうりゅうぞう 不動明王立像【室町時代後期】	かわい じょうりんじあんち 川合(定林寺安置)	平成 9 年 3 月 26 日
みんぞく 無形民俗 ぶんかざい 文化財	ひろせじんじゃ すな まつり おたうえさい 廣瀬神社の砂かけ祭(御田植祭)	かわい 川合	平成 21 年 12 月 11 日
しりょう 考古資料	ちょうりんじあとしゅつどがわら 長林寺跡出土瓦	いげべ 池部 (河合町中央公民館)	令和 4 年 2 月 10 日
こもんじょ 古文書	つついじゅんせいかんじょう 筒井順政感状	さみ た 佐味田	令和 4 年 11 月 22 日
ちよう こく 彫 刻	もくぞうしょうとくたいしりゅうぞう 木造聖徳太子立像	なぐら ちょうりんじあんち 穴闇(長林寺安置)	令和 4 年 11 月 22 日

※「名称」は指定名称です。本文では、なじみのある名称を使用しています。

町内^{しよざいいせき}所在遺跡・文化財^{ぶんかざい}年表

年代	旧石器時代 ^{きゅうせき}	縄文時代 ^{じょうもん}	弥生時代 ^{やよい}	古墳時代 ^{こふん}
おもな 遺跡・文化財 ^{いせき}	- フジ山遺跡^{やまいせき} - 馬見二ノ谷遺跡^{うまみにのたにいせき}	- 宮堂遺跡^{みやどういせき} - 長楽遺跡^{ちやうらくいせき}	舟戸・西岡遺跡^{ふなとにしのおかいせき}	- 佐味田宝塚古墳^{さみたたからづかこふん} - ナガレ山古墳^{やまこふん} - 乙女山古墳^{おとめやまこふん} - 大塚山古墳群^{おおつかやまこふんぐん} - 宮堂遺跡^{みやどういせき} - 池部三ツ池古墳群^{いけべみついけこふんぐん} - 佐味田石塚古墳群^{さみたいしづかこふんぐん}
(所在する地域) ^{しよざいちいき}	(山坊) ^{やまのぼう} (泉台) ^{いずみだい}	(長楽) ^{ちやうらく} (城古) ^{じやうこ}	(大輪田西岡・王寺町舟戸) ^{おおわだにしのおかうじちやうふなと}	(佐味田) ^{さみた} (池部) ^{いけべ} (城古) ^{じやうこ} (城古・市場・穴闇・西穴闇) ^{じやうこいちばなぐらにしなぐら} (佐味田) ^{さみた} (佐味田) ^{さみた} (佐味田) ^{さみた}

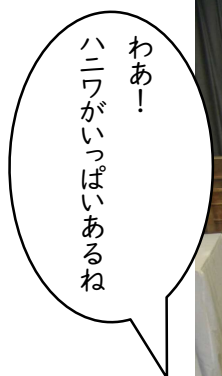
ふろく

かわいちょう

河合町内学校年表

年 代	明治	大正	昭和	平成	令和						
	5	7	44	22	36	46	50	57	25	2	
西 暦	1872	1874	1911	1947	1961	1971	1975	1982	2013	2020	
で き ご と	・河合高等小学校ができる にしなぐらじんじょう ・西穴闇尋常小学校が川合尋常小学校といっしょになる くすりい ※薬井の人は王寺の小学校へ通学する さみた ・佐味田小学校ができる かわい ・川合小学校ができる にしなぐら ・西穴闇小学校ができる おおわだ ・大輪田小学校ができる			・河合中学校ができる（現在の河合第一中学校） かわい ・小学校が一つになり、河合小学校ができる（現在の河合第一小学校） かわい ・河合第二小学校ができる かわい ・河合第三小学校ができる かわい ・河合第二中学校ができる				・すべての学校の耐震補強工事がおわる たいしんほきじょう		・河合第二小学校と河合第三小学校が統合される かわい とうごう	

もっと見たい！ 知りたい！ 学習案内

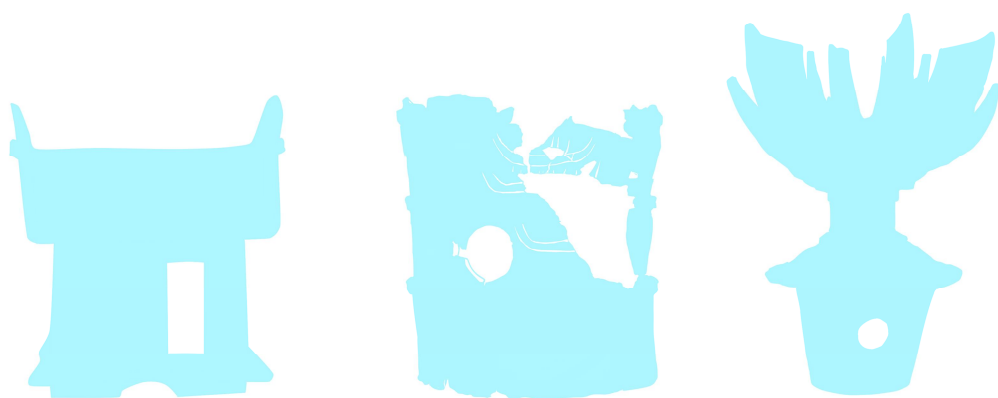
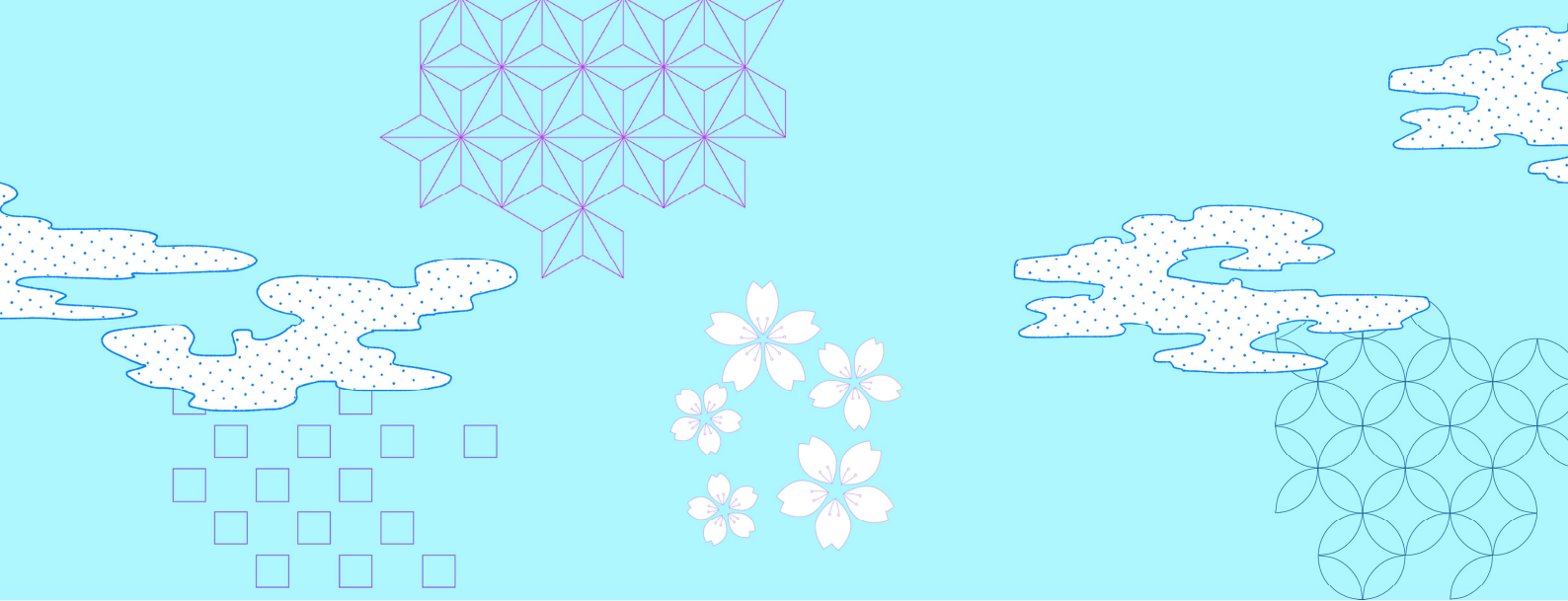


かわいちょう ぶんかざいてんじしつ ○河合町中央公民館 文化財展示室 (池部 2-13-1)

国指定史跡の大塚山古墳群をはじめ、町内の遺跡から出土した土器などを展示しています。

毎年秋に開催される河合町文化祭の期間中に公開するほか、予約申込みをすると見学できます。また、中央公民館ロビーでは文化財展として、いろいろなことをテーマに文化財の企画展示を行っています。





令和5年(2023年)3月制作

**企画制作：河合町教育委員会事務局生涯学習課
〒636-0053**

奈良県北葛城郡河合町池部2丁目13番1号

電話：0745-57-2271 ファックス：0745-57-1165

E-mail: syougaigakusyu@town.kawai.nara.jp